

エビフリヤー

松野弘子

ケアハウスの昼食時も過ぎ
ベッドで一休みする時間

テレビに背を向けて

母の世話をしている耳に

黒柳徹子さんの

「エビフリヤー」という声が

飛び込んできた

襦袢むつきを替えながら

ふと私も

“エビフリヤーは オラの大好物だア

ウミヤーよね”

と呟いたら

母のほつぺたが いきなり

プウツと膨らんで

“プフフツ”と

その口先から

何か噴き出してきたのだ

目もあけず

ものも言わない

寝たきりの体のどこか奥深く

揺蕩たゆたっている源泉でも掘り当てたように

熱く 噴き上ってきたのだ